

里山で発見!



落ち葉やごみ、石の下などにはゴミムシという昆虫の死骸などを食べてくれる虫がいます。(イネ科雑草の種も食べますが)



ハタケノウマオイ：キリギリスの仲間を捕まえるとエサにキュウリなんかをやる人が多いですけど、基本的には肉食ですから、カツオ節などタンパク質のエサもやらないとダメですよ。

平成29年度第3回ボランティア講座
雑木林の生態系（生き物・昆虫編）
9月16日（土）参加受講生14名 今年度3回目の講座では雑木林での生態系、生き物の循環などのお話を聞きました。午後からはカニ山で実際に虫などをつかまえてながら石川和宏講師の説明を聞く度に「へえ」それぞれの昆虫たちの生態や見た目の特徴を聞いていると次第に昆虫への興味が沸いていくようです。



クルマバタモドキ：クルマバタの羽には車のような模様があります。これも草むらの昆虫ですね。



木の枝をたたくと普段気にも留めない小さな昆虫が落ちてきます。アリグモというアリそっくりのクモもいますよ。



エンマコオロギは草原性の昆虫です。正面から見ると閻魔様の顔に似ています



今飛んでいったのはヒカゲチョウですが、このあたりの少し薄暗い林の中などには、そういう場所が好きなチョウの仲間がきますね。

おいしい料理で里山の1日



味見する小宮山シェフ

地場野菜の説明付き
メニューカード

チャイと茹で落花生



台風一過の木漏れ日が美しい



ハンモックでまったり



ビュッフェ形式で思い思いに



bamboo cup

9月18日（月祝）参加者20名 何年も調布に住んでいながら深大寺自然広場（通称カニ山）に来たことが無いという方もたくさんいらっしゃる。そこで今回は里山としての佐須、そして雑木林の魅力を知ってもらいたいと、楽しいイベントを企画しました。
環境市民会議会員の小宮山氏がシェフとなり、おいしくて簡単にできる、という料理でもてなす。
ランチの前には用意した竹で各自お箸とコップを作り、そのお箸を使ってビュッフェ形式で思い思いに料理を取り分ける。お洒落なカナッペからフレッシュハーブのモヒートまで。
調布の里山のことなどの話題提供もあり、珍しく若い女性が多い中でおしゃべりがはずむ、楽しい一日になりました。

花の履歴書④6

戸部英貞 (絵・文)

ワルナスビ ナス科



Solanum carolinense L.

2007年、17年に一度だけ発生するセミの観察に北米に出かけ、グランドキャニオンやアリゾナのフェニックスを旅し、移動途中の公園で、青紫のきれいな花を一面に咲かせているワルナスビの群落に出会った。

日本で日頃見るものよりも色も濃く、写真に収めようとカメラ片手に群落の中に入り、思い切り痛い目に遭って、あらためて名前の由来を思い出した。

北米東部が原産地で、アメリカ全土だけでなく、現在では世界各地に帰化しており、種子だけでなく、切断された地下茎から芽を出し、独立した個体を作り、除草剤も効き難いとのこと、一度生えたと根絶することが難しく、早めに処理することが大切だ。

日本には明治時代の初め頃、千葉県三里塚の牧場に侵入し、オニナスビ、オニクサと呼ばれていたそうで、和名の「ワルナスビ」は、昭和の初め、植物学者の牧野富太郎博士が千葉県

成田市の御料牧場で採集したものを、自宅の庭で栽培したところ根茎で繁殖し、なかなか絶やすことが出来ず、このような性質からワルナスビの名を命名されたというエピソードが残されている。

葉や茎に鋭い刺があり、ナスやジャガイモに似た花は春から秋まで咲き続け、トマトに似た黄色い果実を隠らせるが、全草に有毒なソラニンを含んでおり、家畜が食べて中毒死することもあり、英語でも「Devil's tomato (悪魔のトマト)」などの悪名で呼ばれている。

利用価値のない、嫌われ者扱いされている植物だが、刺や有毒成分のソラニンも、植物が身を守るために天から与えられた防衛手段だ。スケッチするため、一枝をビンに挿してみると、なかなかの美しさに、人の利用価値や好みだけで植物を扱うことに少し反省させられた。

※生態系被害防止外来種

調布あちこち

佐須の柏野小学校東



公園課の管理で草刈がされる予定の取得地

今年度、土地開発公社によって佐須の土地が取得されました。柏野小東側(佐須街道からやや北へ入る)にあたるところで、ここは以前田んぼだったこともあり、佐須里山の景観にふさわしい場所でした。昔風にいうと2反以上の広さがあるようです。今後は行政内の様々な部署やJA、市民団体などによって佐須の土地が有効な使い方を決めていくことになりました。ちょうふ環境市民会議でも水を活かした活用を考へ、里山としての活用を考えれば、と考えています。その際は是非みなさんの協力をお願いいたします。(NK)

昔の多摩川⑨

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ

多摩川のアユ漁

多摩川の川開きは6月1日であるが農家の人は仕事の都合があつて、昔のお盆は8月1日であつた。いつからか8月13日・15日となつて、この頃から魚捕りがはじまる。榎本家(他の部落でも)では水に入る前には餅をついて川びたり餅を食べる習慣があつた。(※普通の餅だが水に入る前にスタミナをつけるためそう呼んだようだ)

用具は次のような物であつた。

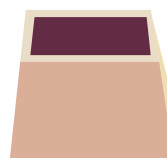
投げ網籠(ビクのこと)、投げ網(ナイロン製 すそにはリングの錘もあり)、箱メガネ、アユつき泰(ヤス)。足半(あしなか)・ムイカラ帽(麦藁帽)・半袖・半ズボンなどのいでたち



ヤス



おじさん愛用のビク
直径30cm 高さ27cm
真ん中が少しくびれている。
中に筒を立てモリをさし、
腰のバンドにつるしていた。



箱メガネ
桐の板で作る
底にはガラスが
貼ってある。



足半

遠くに獲りに行く時は道志川・津川などへ出かけた。国領の桶屋(小林和助さん)のところで、サワラか何かで中型のタルを作ってもらい、フタも付けてもらった。小島町の船田氷店で3kgくらい大きな氷を買って魚を入れる用意をした。どこへ行っても地元漁師に涉りをつけて行っていた。

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

8月20日(日) 曇り 参加者6名

前日の雷を伴う短時間暴風雨の影響で折れた枝や落葉が坂道に散乱していたため清掃を行った。樹林地内、ツバキの森の落枝片付けの他、犬のふん処理袋(水洗トイレ用)とト口箱の始末をした。その他入口のシラカシの太枝が折れ、引つかかっている危険であるので連絡した。

花はヤブラン、ミズヒキ、ハエドクソウ、クサギ、ミヨウガ、ヤブミヨウガ、アジサイ、実はホウチャクソウ、ヒサカキ、ヤブラン、ヤブミヨウガ。(川浦)



9月16日(土) 曇り 参加者6名

6月に草刈りした三角地は、草が伸び放題になり、シャガの森からの入口側から下草刈りを行った。クサギ、コウゾが大きく枝を伸ばしていたため伐採をした。三角地は陽あたりがよいので植生の変化が大きいが分かってきた。作業後、伐採したほうがよいスギを選定した。幹がアリの食われ民家に近いスギを第一候補とした。

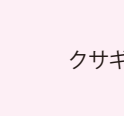
花はトネアザミが咲き始め、他にクサギ、ミズヒキ、ヤブランなど。実はヒサカキ、ヤブラン、ヤブミヨウガ。(安部)



ヒメホシカメムシ



ヤブラン



クサギ

カニ山の会

8月12日(土) 晴れ 参加者8名

東樹林とキャンプ場北側緑地の草刈り、剪定を行った。ぐづついた天気が続いたせいかカタツムリが2匹、モチの木の幹に現れた。「珍しい」と言っているうちに、お腹のあたりから長い生殖器が現れ、つながってしまった。作業の度に、発見がある。



9月9日(土) 雨 参加者11名

セブンイレブンの助成金で買った長い枝打ちハシゴを使ってイチヨウの大枝を落とす。皆でロープを持ち枝の落下を調整。大きな黒いアゲハが飛んできたが、「モンキアゲハ」という関東以西に多いチョウ」と仲間教わる。

午後までの作業日だったので東樹林の草刈りも行った。(鍛冶)



凸凹木の会

8月27日(日) 晴れ 参加者5名

今年の夏は雨が多くて流しそうめんも中止になり、久しぶりに来てみたら、みごとに草の海でした。

キツネノカミソリの花は既に終わり、実をつけていました。栗拾いにむけてひたすら草刈りをしました。

草刈り後



草刈り前

9月24日(日) 晴れ 参加者8名

今年も沢山の山栗がとれました。イガがはぜて栗が一面に散らばっていました。皆でひたすら拾いました。年々粒の大きな実が実るようになってきています。(石原)



栗拾い



一面の栗

若葉緑地の会

8月13日(日) 晴れ 参加者約20名

保全活動は休んで、蝶の観察会を開いた。会員が口コミで呼びかけ、子ども8人を含む約20人が参加。講師・久保快哉さんによるミニ講座のあと、緑地内を散策しながら観察。クロコノハチョウ、ウラギンスズメのほか、満開のクサギの花をクロアゲハがしきりに訪問。



クスノキの葉にアオスジアゲハの幼虫を発見。1回目の脱皮をすませた2齢

幼虫とのこと。初めての企画としてはまずまずだったが、やはり暑さと蚊対策が課題。

9月10日(日) 晴れ 参加者7名

直径20cmほどのクリの木が高さ3mぐらいいで折れているのを発見。折れた先は隣の木にもたれて、引つかかっていた。ロープで引っ張って、安全を確保しながら少しずつ切断。折れた幹にはキツツキの巣穴があ



若葉の森3・1会

9月3日(日) 晴れ 参加者8名

8月はお休みで2か月ぶりの作業日。

第1緑地は、宅地開発隣地境界と通路の間に生育するヤブラン保護が奏功、花が咲いた。カブトムシ採集等により乱雑に転がされた切株を集めて長い竹で固定。六別坂の上側入口の斜面3か所に竹杭の土留めを設置。コンポスト柵を小枝や竹杭で補強。六別坂と緑地内通路の落葉掻きして落葉溜へ積み重ねる。緑地全体のごみ拾い。

第2緑地は、従来からの継続作業を徐々に拡大中。アオキ、シユロ、ササなどの間引き。常緑樹の剪定、風で折れた枝の切取。絶滅危惧種サガミランモドキはまだ多数咲いていて、竹柵で保護。(NOK)



剪定



シュロ掘り起こし



切株固定杭



折れた栗の幹は空洞



ロープをかけて安全確保

り、中はほとんど空洞だった。南側入口付近の草刈りも。残暑がこたえた(大村)。

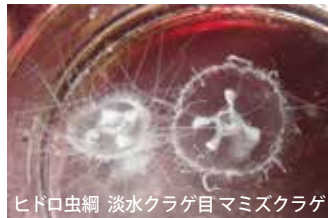
愛しの外来種 マミズクラゲ

野川の学校 磯邊隆

最近、生き物系のバラエティー番組でとにかく外来種は危険、外来種はヤバイなどと視聴者の不安感を煽る場面がとて多く、胸を痛めています。

野生動物の観点からすれば外来種は確かに余計な存在でしょう。ただ、野川のように一度は死の川を経験し、リセットされてしまった都市部の自然において言えば、外来種・在来種の混合で食物連鎖が構築されています。もし現状から外来種を全て取り除いてしまえばたちまち破たんし、自浄作用もうまくいかなくなってしまうと思います。

そんな訳で今回は敢えて外来種をテーマにお話したいと思っています。今が旬？ のマミズクラゲです。



ヒドロ虫綱 淡水クラゲ目 マミズクラゲ

見つけました。是非ご一報頂けると幸いです！

記録はあるが、絶滅したと考えられている淡水クラゲの可能性も……

その名の通り、淡水に棲むクラゲの一種です。傘は2センチ。原産は中国だそうです。現在は世界中で見つかっています。日本でもいつの頃から北海道から沖縄まで広まっております。比較的都市部のため池・井戸・ダム等の止水性の場所で見つ

ちょうふの自然だよりアンケート結果

アンケートに回答下さった25名の皆様ありがとうございました。傘は2センチ。原産は中国だそうです。現在は世界中で見つかっています。日本でもいつの頃から北海道から沖縄まで広まっております。比較的都市部のため池・井戸・ダム等の止水性の場所で見つ

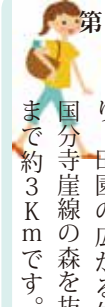
◆配布について 4名の方が有料でも毎回郵送して欲しい。1名が無料で年1回以上は郵送希望。16名は郵送しなくて良い。回答を下さった皆さんはおおむね現在の発行方法や内容に好意的でした。

◆希望記事としては・子どもや若い方、雑木林ボランティア講座受講生の投稿・イベント案内と参加者のレポート・生き物コラム・身近な話題として

（事務局広報担当）

秋を感じるとき……

「金木犀の香りにその年初めて気づくときです。」に「私も！」の反応がありました。私はもう40年近い昔の「君の瞳は10000ポルト」を思い出します。そして朝顔の終わりのやせみの声が聞こえないなどは、夏の終わりで秋を感じるということでしょうか。気象現象や虫の声、香りなど、空気感・音・香り・見た目（大きく変わったジョロウグモ）など季節の訪れは身体全体で感じるものですね。私の目に映った秋は、実りの秋（特にイネ科）。鍛冶



第2回 調布の里山で学ぶ・楽しむ 深大寺里山自然散歩

平成29年3月、深大寺の釈迦如来像（白鳳仏）が新たに国宝に指定されました。国分寺崖線の豊富な湧水は深大寺創建と大きな関わりがあります。

今回は、その歴史を背景にした深大寺・佐須地域の里山を散策します。かつて佐須地域一帯が一面の田んぼであった風景を想像しながら、歩いてみたいと思います。国領駅から野川を渡り、田園の広がる佐須を歩き、国分寺崖線の森を抜け、深大寺まで約3Kmです。

※住所・お名前・電話番号必須

解散後、深大寺での参拝、釈迦如来像（白鳳仏）の拝観、お蕎麦のご賞味など、ご自由にお楽しみ下さい。

10月28日（土）11時から14時
国領駅前〜深大寺まで
案内：小池弘志氏
参加費：千円
佐須地域でとれた野菜のお土産付（保険代含む）
申込み順：15名
申込み：090-5558-1445
ちょうふ環境市民会議



佐須のイネ



野川のケイヌミビエ



野川のススキ



人間樹林のイヌアワ



野川のセイバンモロコシ

環境市民活動スケジュール

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接人間地域センターへ。

- 10/15（日）9:30〜12:30
- 11/19（日）9:30〜12:30
- 12/17（日）9:30〜12:30
- ※10月は植生調査も行います

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 10/14（土）10:00〜12:00
- 11/11（土）10:00〜15:00
- ※11月は親子向けイベントを行います。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 10/8（日）9:30〜12:00
- 11/12（日）9:30〜12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 11/5（日）9:30〜12:00
- 12/3（日）9:30〜12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動を行っています。

- 10/22（日）9:30〜11:30
- 11/26（日）9:30〜12:00
- 秋のイベント リース作り

先の5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部（市役所 8F）、あくろす 2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス（国領）、えねこや、みさと屋（布田）おぎもと内科クリニックなど。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆会員募集！年会費 1000円 / サポーター会員 500円
郵便振替 00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆